

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372002309		
法人名	医療法人 善恵会		
事業所名	医療法人善恵会ふくろう「うらら」		
所在地	愛知県豊橋市八町通三丁目119番地		
自己評価作成日	平成22年1月15日	評価結果市町村受理日	平成22年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市千種区内山1-11-16		
訪問調査日	平成22年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療と介護の一体化による365日24時間の安心安全なサービスの提供

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念の下に「明るい笑顔で目を見てあいさつ」を年度目標とし、利用者とのコミュニケーションを大切に、一緒に生活を楽しむ支援を心がけている。ホームで提供する日々の食事に重点を置き、地元産の魚介類や野菜を豊富に使ったメニューは利用者や家族から大好評である。定例の運営推進会議では、グループホームの課題や現状報告とともに、認知症の人への対応に有効な「回想法の実演」や「音楽芸能鑑賞」などの敬老会行事を併せて実施し、地域、市町村担当者が家族や利用者と交流を図り、ホームへの理解と協力が得られるよう努めている。また、毎年5月に行われる「ふくろう祭り」には、昨年は初めて保育園児の参加もあり、年々外部から協力も増え地域に密着したホームづくりが実践されている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	医療と介護の一体化による安全・安心なサービスの提供を目標とし、地域の有効な社会資源として自覚を持って従事しています。朝礼時に理念に基づいた4つ今年度目標を復唱しています。	毎日朝礼の際に法人理念とともに、今年度の目標である「明るい笑顔で目を見てあいさつ」を唱和し、各職員の意識を高めている。また「報告、連絡、相談」を徹底し、利用者によりよいサービスが提供できるよう情報の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2月の鬼祭りには子鬼・青鬼などが施設にも立ち寄りて下さり、年に一度のふくろう祭りにはたくさんの方たちが見に来て下さいます。	自治会に加入し民生委員との連携を図りながら地元の情報を得るように努めている。毎年ホームで開催している「ふくろうまつり」には地域からの参加者も年々増え、交流の輪を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方に役立つことがあればと話し合っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族・利用者個々の意見も取り入れ自由な暮らしと安全な生活を送れるように話し合っサービス向上に生かしています。	会議の場で家族から、もっと地域の人との交流の場がないかという意見が出され、8月の地元の花火大会と合わせてホームの駐車場で「祇園花火バーベキュー」を開催した。地域の人を招待し、利用者と一緒に花火観賞をしながら楽しい時間が過ごせ大好評であった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地元の民生委員とも良い関係が築かれており、市との連携につながっている。母体病院は市の避難待機場所として指定を受け、協力関係も築かれています。	管理者が介護相談員活動をやっていることもあり、市の担当者とは情報の交換や提供を密に行い、連携を図っている。ホームで行事を開催する際は、その都度お知らせをし参加協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はせず、自由に行動できるように努めています。	利用者の意に反する行動の抑制は「拘束になる」という意識を持ちながらケアに努めるようにしている。利用者の気持ちに寄り添うことを心がけ、利用者の主体性を尊重できる支援に取り組んでいる。定期で実施している勉強会では、実際にロールプレイを行い認識を深めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は施設内であってはならないことなので、管理者や職員も互いに注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族が居られる方たちなので、成年後見制度・権利擁護に関しては活用されてません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、利用案内の説明文書等を渡し施設長より、分かりやすく説明して理解・納得して頂くよう図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会を開催し相談や苦情を第三者も交えて話し合える機会を設けています。	体調の変化や怪我などをした際はすぐに家族へ連絡を入れ対応するよう努めている。出来る限り利用者と家族の意見を反映させたサービスを提供出来る様、日頃から声をかけている。	運営推進会議の場だけでなく、それぞれの家族から個別に意見が聞ける機会を設け、より家族の思いをサービスに反映していけるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダーミーティング(週一回)・職員全体会議(月一回)を開催し意見交換を行っています。	会議で業務改善などの意見が出た際は、一度試してみて調整を図りながら、より良い方法を決めている。また、業務担当表や勤務希望ノートを作り、職員が働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的な管理者の指導・助言に加えケーススタディを含めた勉強会や職員会議の実施で課題解決のための努力に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問などの活動を通じて、サービスの質の向上をさせていくよう取り組みをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴、受容に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることなど、不安なこと、求めていること等をよく聴き受けとめる努力をしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にお買い物に行ったり、食事の配膳や下膳、掃除・洗濯物たたみなどする時、若い職員はいろいろ教えて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に、入居者や職員も一緒に楽しく会話できる関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日曜日やお天気の良い日など、ご家族が来所され馴染みのお店や神社なそへ一緒に行かれます。	個別援助として入居前に利用していた理容院、歯科、回転寿司など外食へ出かけている。また、外出ボランティアの協力を得て、利用者の希望するレストランや生け花展覧会などに出向き、外へ出る機会を定期的に設けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	いろいろな行事にも全員参加できるように配慮し、日常の食事も皆が楽しく会話をしながらフロアーにて頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	参加できる行事には連絡をしたり、時々電話などして様子を伺います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との日常での会話や行動などから把握できたことを、個別ケアカンファレンスに反映させています。	職員は利用者に希望や要望を聞いている。入居時に聞いたり、日常生活の中で表情や利用者同士の会話の中からヒントを得る時もある。また、ケアプラン作成時にも本人、家族に聞いており、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との日常での会話などから把握できたことを、個別ケアカンファレンスに反映させています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週各人の個別ケアカンファレンスを行い、其々の意見やアイデアを反映した計画書を作成しています。	介護計画は1年毎の見直しとなっている。モニタリングは日々の生活記録や毎週行うカンファレンス、また、家族や医師にも意見をもらい利用者の現状を把握することで実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきや実践結果を生活記録に記入し、情報を共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くにお城や公園・美術館などがあり散歩しながら出かけています。その時ボランティアの方たちも協力して下さいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師が常勤しているので適切な医療が受けられます。	眼科、耳鼻科、歯科などの専門医には職員と家族が通院に付き添っている。他は同一ビルにあるかかりつけ医となっており安心である。専門医とかかりつけ医との連携は職員が適切に行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療と介護の一体化しているので、看護職員も多数いるので気軽に相談できます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の変化に備えて検討・準備していきたい。	当事業所は医療と介護の一体化が図られており、重度化や終末期のあり方は入居時に説明している。家族には状態変化がある時は随時報告しており、医療が必要になった場合は医師と連携を図り、利用者、家族の意向に沿ったケアサービスに努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生マニュアルに沿って行動できるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練や避難訓練は行っているが、地震・水害時の避難方法も職員全員が身に付けるように地域の方の協力が得られるように働きかけしていきたい。	避難訓練は年1回消防署の協力を得て、同一ビル全体で行っている。町内会の人も参加しており、利用者は階段で降りたら何分かかるかを意識して訓練している。	あつてはならないこととは思うが、いざと言う時にスムーズに避難誘導ができるよう全職員が定期的に訓練を行うことを望んでいる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士で注意しあいながら傾聴・肯定に努めています。	職員はその人に合ったケアサービスを心がけている。また、利用者の誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いに留意している。個人情報についても事務所に保管するなど取り扱いに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様1人ひとりが自己決定できることを大切にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員も仕事に余裕を持ち一人ひとりの話に耳を傾けゆったりとしたペースで支援しているように心がけています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容院の選択は本人の昔からの行き着けのお店などに行けるように努めています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には季節感を感じて頂ける物や入居者一人ひとりの好みを取り入れています。個別のお祝い等も実施しています。	職員が利用者の嗜好を把握してメニューを決めている。また、利用者の能力にあった調理や片づけなど共に行っている。職員は食べこぼしなどさりげないサポートを心がけており、楽しい雰囲気が進んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理師による栄養指導で一人ひとりに応じた支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様一人ひとりの状態に応じた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様一人ひとりの状態に合わせた下着等の使い分けをし、排泄パターンを把握しトイレ誘導しています。	職員は利用者個々の排泄パターンや状態に合ったパットの使い分けをしており、自立に向けてトイレ誘導の支援をしている。夜は睡眠を優先してパット交換など速やかに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	10時・15時のお茶の時間以外にも水分補給するように努めている。食事でも繊維質の物や一日に一回はバナナを食べて頂ける心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にはバイタル測定すると共に本人にも健康状態を確認して、ゆっくり入浴して頂いています。	入浴時間は決めていないが概ね午後の入浴となっている。利用者が入りたい時に入ってもらっているが、入浴拒否の人には声かけに気をつけて上手に入浴してもらっている。しかし無理強いはしていない。週3回は入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の自由なリズムを保っていますが、遅くまで起きている方には時々言葉かけをし、睡眠不足で翌日の活動に支障が出ないように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員一人ひとりが薬の目的や服薬のことに関して看護師による勉強会に参加し、説明してもらい服薬支援の理解はできている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や外食、演劇を鑑賞したりなど部屋の中だけでなく、外へ出かけたり会話をしして気持ちよくして頂いている。その他、習字や絵画、体操、歌などのボランティアの方たちが来られます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日の散歩、又は買い物など一人ひとりの希望にそって職員と一緒に楽しみながら行っています。	外出は家族の要望でもあり、利用者は散歩や買い物、喫茶店、食事、ドライブなど外出する機会が多い。また、家族と馴染みの場所に外出する人もいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様一人ひとりの力量に応じて本人が管理しているが、家族や施設側で管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話したり手紙のやり取りができています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間や食卓に季節に応じた花を飾るなどの工夫をしている。	リビングには利用者と職員と一緒に作成したちぎり絵やソファ、テーブル、椅子、また、窓際にはベンチが置かれ利用者が思い思いに寛げる用意がされている。また、季節を感じるお雛様も飾られている。室温も適度で過ごしやすい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にソファを置いてそこで気の合った利用者同士で会話したり、新聞を読んだりして過ごすこともできます。一人になりたいときは、自室でいつでも自由に過ごすことができます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に本人の使い慣れた物や好みの物を持ってきて頂いて以前の暮らしと変わらない部屋にして頂いています。	居室にはタンス、冷蔵庫、花、写真、利用者が作った作品などが飾られ、利用者の居心地の良い居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事準備や後片付け、掃除などできる範囲で職員と共に行い、入居者のやる気を損なわないよう配慮し、持てる力を発揮できるように支援しています。		

外部評価軽減要件確認票

【重点項目への取組状況】

重点項目①	事業所と地域とのつきあい（外部評価項目：2） 自治会に加入し日頃から民生委員との連携を図り、地元の情報収集に努めている。また、毎年5月に開催される「ふくろう祭り」には、地域住民、保育園、高校、豊田市など多くの地元の人が参加し利用者との交流を深めている。認知症への理解も少しずつ得られており、地域に密着したホームの実践が出来ている。	評価 ○
重点項目②	運営推進会議を活かした取組み（外部評価項目：3） 地域代表者、市の担当者、包括支援センターなどの参加協力を得て、2ヶ月に1回定例化し実施している。会議では課題や現状報告をするだけでなく、会議と合わせて行事を設け、実際に利用者や家族と交流を図ると共にホームの取組みを知ってもらうよう努めている。	評価 ○
重点項目③	市町村との連携（外部評価項目：4） 市が主催している研修にパートも含めたすべての職員が参加できるようにし、サービスの質の向上を目指している。また、インフルエンザが流行した時期には、ホームの行事の開催にあわせて、市の担当者から情報とともにアドバイスを受けるなど日頃から繋がりを持つよう努めている。	評価 ○
重点項目④	運営に関する利用者、家族等意見の反映（外部評価項目：6） 運営推進会議を通じて家族や利用者の希望や意見を聞き、行事や日々を安心して元気に生活出来るよう医療面の充実を図り、定期的に健康状態の報告を行い家族からの信頼を得ている。	評価 ○
重点項目⑤	その他軽減措置要件 ○「自己評価及び外部評価」及び「目標達成計画」を市町村に提出している。 ○運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されている。 ○運営推進会議に市町村職員等が必ず出席している。	評価 ○ ○ ○
総合評価		○

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

運営推進会議では、いかに利用者が生きがいを持って、主体となれる生活を送ることが出来るかなど話し合っている。ホームで定期的の実施している絵画教室はその取組みの1つでもあり、利用者の作品を毎年豊橋市美術博物館で行われる「青羅」の日本画教室展に出品し、賞をもらう利用者もいる。また、地域の人が利用者の作品を見て感銘を受けホームまで訪ねてくることもあり、地域の中でその人らしく暮らせる環境づくりを実践している。

1. 外部評価軽減要件

- ① 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」及び「2 目標達成計画」を市町村に提出していること。
- ② 運営推進会議が、過去1年間に6回以上開催されていること。
- ③ 運営推進会議に、事業所の存する市町村職員又は地域包括支援センターの職員が必ず出席していること。
- ④ 別紙4の「1 自己評価及び外部評価」のうち、外部評価項目の2、3、4、6の実践状況（外部評価）が適切であること。

2. 外部評価軽減要件④における県の考え方について

外部評価項目2、3、4については1つ以上、外部評価項目6については2つ以上の取り組みがなされ、その事実が確認（記録、写真等）できること。

外部評価項目	確認事項
2. 事業所と地域のつきあい	(例示) ① 自治会、老人クラブ、婦人会、子ども会、保育園、幼稚園、小学校、消防団などの地域に密着した団体との交流会を実施している。 ② 地域住民を対象とした講習会を開催若しくはその講習会の講師を派遣し、認知症への理解を深めてもらう活動を行っている。
3. 運営推進会議を活かした取組み	(例示) ① 運営基準第85条の規定どおりに運用されている。 ② 運営推進会議で出された意見等について、実現に向けた取組みを行っている。
4. 市町村との連携	(例示) ① 運営推進会議以外に定期的な情報交換等を行っている。 ② 市町村主催のイベント、又は、介護関係の講習会等に参画している。
6. 運営に関する利用者、家族等意見の反映	(例示) ① 家族会を定期的（年2回以上）に開催している。 ② 利用者若しくは家族の苦情、要望等を施設として受け止める仕組みがあり、その改善等に努めている。 ③ 家族向けのホーム便り等が定期的（年2回以上）に発行されている。

（注）要件の確認については、地域密着型サービス外部評価機関の外部評価員が事実確認を行う。

